

# 総務企画防災常任委員会行政視察報告書

斎藤昌之

## ○神奈川県湯河原町

### パークPFIを活用した万葉公園の再整備について

#### 【所見】

湯河原温泉は万葉集にも謳われた温泉場であるが、10年以上前から入れ込み客数の減少、地場の観光産業の低迷が続いていた。また、最大の観光スポットに隣接する公共施設の老朽化等により、施設の改善や機能の見直しが課題であった。

そこで、平成28年度より官民連携支援事業に着手し、平成30年度にはパークPFIの事業化を決定した。事業者サウンディングには7社が意欲を示していたが、申し込みは1社という結果でPFI事業の難しさが感じられる結果となったと思われる。結果的に総工費総額11億円を要し、国からの補助金が4.5億円あったものの湯河原町の負担は相当のものがあつたと推察される。

民間活力導入により老舗旅館のリニューアルを始め、廃業した旅館等の新たな展開を図るなど一定の効果は認められる。しかし、海に面しての漁業、伝統ある温泉場、ミカン栽培が9割を占める農業が湯河原町の経済の中心であり、隣接する真鶴町との合併協議はあつたものの実現しなかつたことから、人口23,000人程の町として将来展望は厳しいものと思われる。しかしながら今回のPFI事業を契機に活性化が図られることを期待したい。

足利市においても、公共施設再編にあたりPFI事業の検討も行われているが、公民連携の事業については綿密な計画と同時に、将来展望を明確に把握することが必要であると考え。これまでも、公共施設建設にあたりリース事業を選択した事例もあるが、行政の一時的な費用負担が軽減されるという反面、借金の先送りとの指摘もあることから、事業の規模、市民の事業への関わり度合い等を考慮することにより検討することが肝要であると考え。

本市の場合、公共施設の性質により官民連携の検討をする必要があると考え。民間のノウハウが十分発揮され収支も改善される可能性の高い施設は民間の参入を推進していく方向性を検討すべきである。